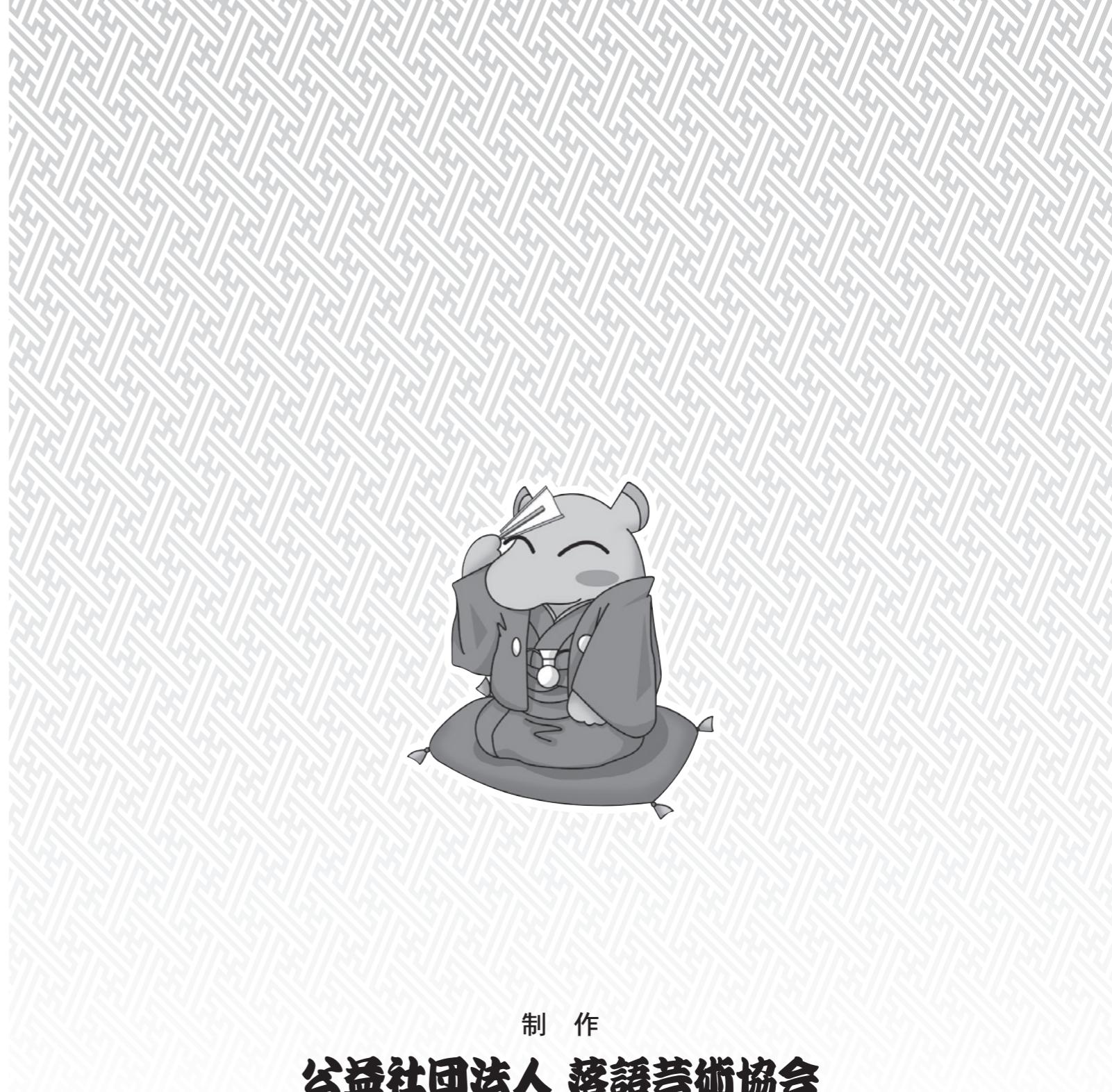




「文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—」

我が国の一連の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

文化庁



制作

公益社団法人 落語藝術協会

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎2階 公益社団法人 落語藝術協会

TEL:03-5909-3080 FAX:03-5909-3082

ホームページ www.geikyo.com Eメール info@geikyo.com

表紙イラスト：とつか りょうこ

し 知ってますか？～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることとしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。



昔々亭 桃之助



演芸公演

「文化芸術による子供育成総合事業」—巡回公演事業—

わくに いちりゅう ぶんかげいじゅつだんたい しうががこう ちゅうがこう など こうえん こども すぐれ ばたい いがいじゅつ かんしゅう
我が国の一連の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞
する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や
国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。事前のワークショップでは、子供たちに
実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



文化厅

制作
公益社団法人 落語藝術協会

160-0023 東京都新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎2階 公益社団法人 落語芸術協会

TEL:03-5909-3080 FAX:03-5909-3082

ホームページ www.geikyo.com Eメール info@geikyo.com

表紙イラスト：とつか りょうこ

し がつ ついたち こく さい おん がく ひ
知っていますか？ ~ 10月 1日は「国際音楽の日」です ~

ねん ようせい せつりつ こくさいおんがくひょうぎかい かいぎ よくとし ねん まいとし がつ いつたち
1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日
を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることとしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。



昔々亭 A太郎



小助・小时



桂 伸べえ



春風亭 かけ橋



○ 嘣家(前座)の修行
前座修行を経て、真打になるまでには15年くらいかかります。前座の修行は大変です。落語を覚えるのはもちろんのこと、太鼓も覚えなければなりません。その他、先輩方にお茶を出したり(個々の人の好みを覚えなければなりません)、着物をたんんだりと大変忙しく、覚えることがたくさんあります。前座修行を4年間努め晴れて二ツ目昇進です。これからは、自分の芸をみがかななければなりません。

嘶家はいつまでも芸の勉強をしなければならないのです。

○ 嘣家(前座)の修行
嘶家には《前座》↓《二ツ目》↓《真打》という段階があります。厳しい修行を行って、真打になるまでには15年くらいかかります。前座の修行は大変です。落語を覚えるのはもちろんのこと、太鼓も覚えなければなりません。その他、先輩方にお茶を出したり(個々の人の好みを覚えなければなりません)、着物をたんんだりと大変忙しく、覚えることがたくさんあります。前座修行を4年間努め晴れて二ツ目昇進です。これからは、自分の芸をみがかななければなりません。

嘶家はいつまでも芸の勉強をしなければならないのです。



〒160-0023
東京都新宿区西新宿6-12-30
芸能花伝舎2階
公益社団法人 落語芸術協会
TEL.03-5909-3080 FAX.03-5909-3082
www.geikyo.com
info@geikyo.com

○ マクラ
マクラとは嘶家の本題に入る前にしゃべる、ちょっとした世間話や小咄のことです。事前に演題を発表しない寄席では、嘶家はマクラでお客様の反応を探つてどんな演目にするか選びます。

○ 寄席のいろり
寄席という人は人を集めて芸能を催す「人寄せ場」の略です。

○ オチへさげ
扇子と手ぬぐいの二つを持ち、この小道具をいろいろな形に使いながら、落語の世界を創つていきます。扇子はお箸・筆・刀・キセルなどに。手ぬぐいは財布・煙草入れ・巾着などに見立てて使われます。

○ 落語のスタイル
江戸時代落語は「落とし廻」と呼ばれています。主なものとして、地口オントコイと打ちます。これを合図に開場です。次に、開演直後には「一番太鼓」が鳴ります。(オタフクコイ、オタフクコイ)と打ちます。着到(ちやくとう)とも呼ばれる太鼓で間もなく開演です。出隣子と共に開口一番前座さん(じゆうざさん)と打ち、これで寄席の一日が終わります。この太鼓、実は嘶家(前座)が叩いています。

○ 落語の始まり
落語の始まりは、室町時代末期から安土桃山時代にかけて、戦国大名のそばに仕え、話の相手をしたり、世情を伝えたりする「御伽衆」と呼ばれる人達が、「廻」を披露して大喜びされました。後に、京都所司代の板倉重宗に頼まれ一人安樂庵策伝といつ淨土宗の僧侶は、豊臣秀吉の前で滑稽なオチのつく面白おかしく話をし広めたことが起源であるとされています。その中の千余りにものほる小廻を「醒睡笑」という書物に記しています。

江戸時代に入り有料で廻を聞かせる人が登場します。大阪では「露の五郎兵衛」、江戸では「鹿野武左衛門」などが活躍しました。

みなさん初めまして、ぼくはバク助です。
落語芸術協会のマスコットキャラクターとして生まれました。
どうしてぼくがマスコットになったかというと、落語をもっと子供のみんなにも聞いてもらいたいと思ったからなんだ。
「落語」ってちょっとむずかしそうな感じがするよね。
話しかたなんかも今は少しがうし、名前なんか聞いたこともない道具がいっぱい出てくるし、はじめてだとわからぬことだらけだよね。
そんなむずかしいことをぼくがわかりやすくおしゃてあげるよ。
でも、ぼくも生まれたばかりだからぜんぶ知ってるわけじゃないんだ。
けどこれから落語のことをいっぱい勉強していくからだいじょうぶ。
だからみんなもぼくのことを応援してね。



「文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—」

我が国の一
流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

文化庁



制作

公益社団法人 落語藝術協会

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎2階 公益社団法人 落語藝術協会

TEL:03-5909-3080 FAX:03-5909-3082

ホームページ www.geikyo.com Eメール info@geikyo.com

表紙イラスト：とつか りょうこ

し 知ってますか？～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることとしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。



たちばな
橘ノ圓滿



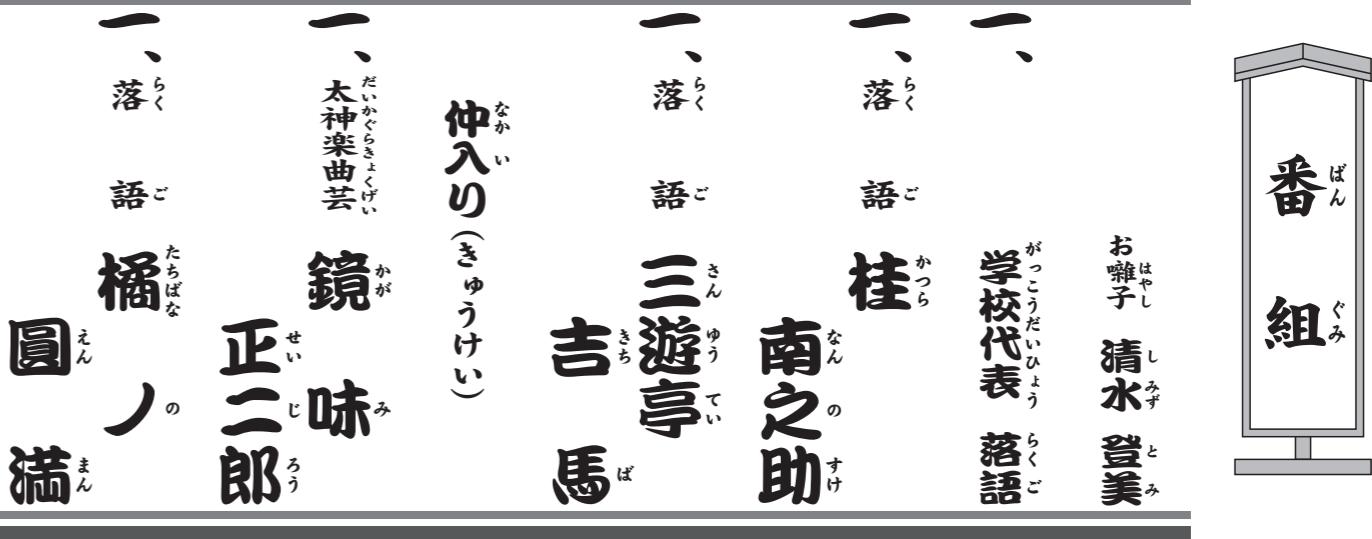
かがみ
鏡味 正二郎



さんゆうてい
三遊亭 吉馬



かつら
桂 南之助



番組

○ 嘶家 (前座) の修行

嘶家には《前座》↓《二ツ目》↓《真打》という段階があります。厳しい修行を経て、真打になるまでは15年くらいかかります。前座の修行は大変です。落語を覚えるのはもちろんのこと、太鼓も覚えなければなりません。その他、先輩方にお茶を出したり(個々の人の好みを覚えなければなりません)、着物をたんんだりと大変忙しく、覚えることがたくさんあります。前座修行を4年間努め晴れて《二ツ目昇進》です。これからは、自分の芸をみがかなればなりません。

嘶家はいつまでも芸の勉強をしなければならないのです。

マクラとは嘶家の本題に入る前にしゃべる、ちょっとした世間話や小咄のことです。事前に演題を発表しない寄席では、嘶家はマクラでお客様の反応を探つてどんな演目にするか選びます。

○ 寄席のいろり

寄席というのは人を集めて芸能を催す「人寄せ場」の略です。扇子と手ぬぐいの二つを持ち、この小道具をいろいろな形で使いながら、落語の世界を創つていきます。扇子はお箸・筆・刀・キセルなどに。手ぬぐいは財布・煙草入れ・巾着などに見立てて使われます。

マクラ

江戸時代落語は「落とし廻」と呼ばれています。事前に演題を発表しない寄席では落語と色物と呼ばれる「見て楽しめる」ものが次々と登場します。寄席の一日は太鼓で始まります。開演の30分前に「一番太鼓」が鳴ります。(ドンドンドンドコイ、ドンドンドントコイ)と打ちます。これを合図に開場です。次に、開演直後には「一番太鼓」が鳴ります。(オタフクコイ、オタフクコイ)と打ちます。着到(ちやくとう)とも呼ばれる太鼓で間もなく開演です。出隣子と共に開口一番前座さんの登場です。その後も仲入り(休憩)の太鼓、トリ(一番最後に出る方)が終わると追い出し太鼓を打ちます。別名「薄情太鼓」とも呼ばれ(テケ、テケ、デテケ)と打ち、これで寄席の一日前が終わります。この太鼓、実は嘶家(前座)が叩いています。

○ 落語のスタイル

上下へかみしも

江戸時代落語は「落とし廻」と呼ばれています。主なものとして、地口オチ・とだんオチ・仕草オチ・考え方オチ・間抜けオチなどがあります。

持ち道具

扇子と手ぬぐいの二つを持ち、この小道具をいろいろな形で使いながら、落語の世界を創つていきます。扇子はお箸・筆・刀・キセルなどに。手ぬぐいは財布・煙草入れ・巾着などに見立てて使われます。

○ 落語の始まり

落語の始まりは、室町時代末期から安土桃山時代にかけて、戦国大名のそばに仕え、話の相手をしたり、世情を伝えたりする「御伽衆」と呼ばれる人達が「廻」を披露して大変喜ばれました。後に、京都所司代の板倉重宗に頼まれ一人安樂庵策伝といつ淨土宗の僧侶は、豊臣秀吉の前で滑稽なオチのつく面白おかしく話をし広めたことが起源であるとされています。その中の千余りにものほる小廻を「醒睡笑」という書物に記しています。

江戸時代に入り有料で廻を聞かせる人が登場します。大阪では「露の五郎兵衛」、江戸では「鹿野武左衛門」などが活躍しました。

協会

〒160-0023
東京都新宿区西新宿6-12-30
芸能花伝舎2階
公益社団法人 落語芸術協会
TEL.03-5909-3080 FAX.03-5909-3082
www.geikyo.com
info@geikyo.com

● 公益社団法人 落語芸術協会

落語芸術協会は、落語芸術の普及と振興を目的とした公益社団法人で、昭和5年に日本芸術協会として設立され、平成23年4月に「公益社団法人 落語芸術協会」と改称されました。当協会は寄席芸能の責任団体として、東京の寄席の出演を始め全国各地の会館や学校で主催される、寄席(落語芸術のリーダー格として位置付けられています)。

みなさん初めまして、ぼくはバク助です。
落語芸術協会のマスコットキャラクターとして生まれました。
どうしてぼくがマスコットになったかというと、落語をもっと子供のみんなにも聞いてもらいたいと思ったからなんだ。
「落語」ってちょっとむずかしそうな感じがするよね。
話しかたなんかも今は少しがうし、名前なんか聞いたこともない道具がいっぱい出てくるし、はじめてだとわからぬことだらけだよね。
そんなむずかしいことをぼくがわかりやすくおしゃてあげるよ。
でも、ぼくも生まれたばかりだからぜんぶ知ってるわけじゃないんだ。
けどこれから落語のことをいっぱい勉強していくからだいじょうぶ。
だからみんなもぼくのことを応援してね。

